

度会町

大野

ザール
宮リバー



市内人口
町地域

左から
会長の
の御村

約200m
約100m

下久具・上久具・
棚橋・大野木

伊勢市の南西に位置する度会町は
玉城町・南伊勢町・大紀町などと
接することから、古くから交通の要
衝でした。特に北部を東流する宮
川は、大台ヶ原の森林資源や、米
野菜などの物資を運搬するルートと
して重要な役割を果たしました。
そのため、流域には歴史ある神社
仏閣や伝統行事などが、今に受け
継がれています。

今回は、倭姫命ゆかりの久具都
比賣神社をはじめとして、さまざま
な伝承が息づく各地区を巡ります。

取材・文：中村真由美

至大紀町

至伊勢市

100

15

今回の案内人は、度会町の魅力を発信する「度会町地域資源を守る会」の皆さん。向かって左から、会計担当の西村 肇（はしむ）さん、会長の橋本 丈男（たけお）さん、事務局長の御村（みむら）一真さんです。

今回の案内人は、度会町の魅力を発信する「度会町地域資源を守る会」の皆さん。向かって左から、会計担当の西村 肇（はしむ）さん、会長の橋本 丈男（たけお）さん、事務局長の御村（みむら）一真さんです。

■ 行程図 所要時間／約3時間30分 ※所要時間は、おおよその目安です。

START

「バザールわたらい」(「宮リパー度会パーク」内) → 約500m → 内城田大橋 → 約600m → 山崎の大岩 → 約200m → 公民館前広場(海蔵寺境内)

↑約1km 大泉寺 ← 約200m 観音堂 ← 約2.5km 薬師堂 ← 約500m 蓮華寺 ← 約800m 久具都比売橋 ← 約100m 久具都比賣神社 ← 約1.3km



山崎の大岩の窟にたたずむ祠

出発。芝生広場で遊ぶ親子を眺めながら南西に進むと、やがて大きな橋が架かっているのに気がきました。内城田大橋です。橋の上からは、山々と宮川の流れるが眺望でき、心ひまいます。しかし、かつてこの辺りで12名が犠牲になった事故があったと教わりました。その痛ましい事故とは、明治3(1870)年、現在の大紀町野原の人々が、疫病の平癒祈願のために鵜飼船で伊勢神宮へ向かう途中、岩に激突

上が座れるほどの窟があり、小さな祠がたずんでいます。中に祀られているのは、愛宕神社の火伏（ひふせ）の伏（ふせ）太（た）夫（お）さん祭り」ではここで火を焚きながら、一同で般若心経を唱えるといいます。地域住民の信仰を集める山崎の大岩を後にして、静かな住宅地の中を進みます。下久具地区では、毎年2月の第1土曜日に「公民館前広場（海蔵寺境内）や、神宮遣（うけ）所（しよ）前（まへ）などで行われる「下久具の御頭（みかぶ）神事（しんじ）」の獅子舞が



「宮リバー度会パーク」内の芝生広場



宮川に架かる内城田大橋

憩いの場「宮リバー度会パーク」

今回の旅は、宮川に沿って芝生広場や遊水プールなどが続く「宮りバー度会パーク」を基点にします。季節ごとにイベントなども開催される同パークには、町内外から多くの人々が集います。東西に広いため、駐車場が6か所あり、大変便利です。

この日は、売店やレストランを併設した「バザールわたらい」

して難破したというものが、近くには、供養するための地蔵が置かれていましたが、現在は大野木地区に移されています。

「毎年1月に『愛宕あたごさん祭り」が行われる山崎の大岩にも寄って行きましょう。知る人ぞ知る場所ですよ」との案内で、内城田大橋を渡り、下久具地区へと入ります。お話の大岩は、森閑とした杉林の中、急な石段を上った先にあります。その大きさに圧倒されます。一度に十数人



観音堂(大野木)



蓮華寺の山門と奥に見える本堂



歯の神



薬師堂

水難事故の犠牲者を供養する野原地蔵

同地区では、薬師如来坐像などが安置された薬師堂や、「棚橋の御頭神事」の獅子頭を安置した「大上殿」などが見られる法光寺にも立ち寄りたいもの。いずれも、地域の人々が大切に受け継いできたものなのです。

続いて大野木地区へと向かいます。途中で目にするのが、茶畑です。宮川沿いでは、随所で

「次に向かうのは蓮華寺です。由緒あるお寺ですよ」との案内で進むと、やがて見えてきたのが、風情のある山門。門をくぐると、左手に観音堂、正面に建つのが本堂です。同寺の歴史は古く、平安時代中頃にまで遡るといわれます。鎌倉時代には、武家や公家の祈禱所として勢力を持ち、全盛期には20を超える末寺があったと伝わります。現在の本堂は、享保8(1723)年に建立されました。

蓮華寺から大泉寺へ

の渡し」でした。

同様の光景が見られますが、川から立ち上る霧が、香り豊かな「わたらい茶」をはぐくむのです。大野木地区で見逃せないのは、観音堂と大泉寺です。前者では、毎年3月の初午の日に祭りが行われ、江戸時代初期の十一面観音立像が開帳されます。また、傍らには、庚申堂・歯の神・子安地蔵堂がたずみまいます。

一方、後者の大泉寺の境内には、野原地蔵が祀られています。

これが、内城田大橋の上で聞いた水難事故の際に祀られた地蔵で、現在はこの地で、犠牲者の供養が行われているのです。

大泉寺から「宮リバー度会パーク」の東端までは、徒歩で約数分の距離。終点の「バザールわたい」で、特産品の「わたらい茶」や新鮮野菜などをお土産に買って帰るのも、旅の楽しみの一つといえるでしょう。

「度会町地域資源を守る会」
TEL090・3301・5498
(橋本 丈男会長)



クスノキ



伊勢神宮の摂社・久具都比賣神社



「下久具の御頭神事」※



「倭姫命の鬢水入れ」



「棚橋の御頭神事」※

各地区に伝わる楽しいお話を教わりながら、下久具地区を抜け、上久具地区に入ります。すると、右手前方に木々が茂る一角が見えてきました。ここが、天照大神御鎮座の地を求めて巡行中の倭姫命が立ち寄られたと

倭姫命ゆかりの久具都比賣神社

有名。また、棚橋地区では、同月第2土曜日に「棚橋の御頭神事」が行われ、勇壮な獅子舞が見られますが、ここで両地区の獅子頭にまつわる逸話を教えてもらいました。それは、もともとは両地区の獅子頭は夫婦で、ある時、大火事から保護するために宮川へ流したところ、雄の獅子頭は棚橋の人が、雌の獅子頭は下久具の人が拾い上げたというもの。そのため獅子舞の際には、棚橋ではさきよう(左京)、下久具ではだいじよう(大上)と、お互いの名前を呼ぶのが慣わしになっているのです。

「こつちにきてください」と誘われ、足元に注意しながら坂を下ると、突然、小さな池が出現しました。ここには、倭姫命がお化粧をしたり、髪を直されたという伝説が残し、倭姫命の鬢水入れと呼ばれています。久具都比賣神社に参拝した後、再び宮川を渡り、棚橋地区へと向かいます。ここに架かる橋は、平成6年に完成した久具都比賣橋。実は、この橋が架かるまでは、小学校に通う子どもたちも含めた町民や荷物などは、渡し船で運んでいたといいます。町内を流れる宮川には7か所の渡し場がありましたが、最後まで残ったのが、この「上久具